

# 決算短信補足資料

( 2023年3月期決算 )

2023年4月28日  
西日本旅客鉄道株式会社

# 1.決算ハイライト

(単位：億円)

	2022年3月期 通期実績 A	2023年3月期 通期実績 B	対前年		2024年3月期 通期予想 C	対前年	
			増減 B-A	比率(%) B/A		増減 C-B	比率(%) C/B
<b>【連結】</b>							
営業収益	10,311	13,955	+3,644	135.3	15,120	+1,164	108.3
営業利益又は損失 (▲)	▲ 1,190	839	+2,030	-	1,150	+310	137.0
経常利益又は損失 (▲)	▲ 1,210	736	+1,946	-	995	+258	135.2
親会社株主に帰属する 当期純利益又は純損失 (▲)	▲ 1,131	885	+2,017	-	665	▲ 220	75.1
<b>【単体】</b>							
営業収益	5,776	7,912	+2,136	137.0	9,080	+1,167	114.8
運輸収入	4,876	6,945	+2,068	142.4	8,070	+1,124	116.2
営業費用	7,046	7,523	+476	106.8	8,330	+806	110.7
人件費	1,807	1,866	+58	103.3	1,880	+13	100.7
物件費	3,347	3,773	+426	112.7	4,510	+736	119.5
動力費	408	596	+187	146.1	695	+98	116.6
修繕費	1,367	1,401	+34	102.5	1,640	+238	117.0
業務費	1,572	1,776	+204	113.0	2,175	+398	122.4
減価償却費	1,272	1,242	▲ 30	97.6	1,295	+52	104.3
営業利益又は損失 (▲)	▲ 1,270	389	+1,659	-	750	+360	192.5
経常利益又は損失 (▲)	▲ 1,382	274	+1,657	-	605	+330	220.1
当期純利益又は純損失 (▲)	▲ 1,216	594	+1,810	-	440	▲ 154	74.0

# 2. 単体損益計算書

(単位：億円)

	2022年3月期 通期実績 A	2023年3月期		対前年		対予想 増減 C-B
		通期予想 (1/31公表) B	通期実績 C	増減 C-A	比率(%) C/A	
営業収益	5,776	7,690	7,912	+2,136	137.0	+222
運輸収入	4,876	6,730	6,945	+2,068	142.4	+215
その他収入	899	960	967	+67	107.6	+7
営業費用	7,046	7,645	7,523	+476	106.8	▲ 121
人件費	1,807	1,775	1,866	+58	103.3	+91
物件費	3,347	3,975	3,773	+426	112.7	▲ 201
動力費	408	590	596	+187	146.1	+6
修繕費	1,367	1,510	1,401	+34	102.5	▲ 108
業務費	1,572	1,875	1,776	+204	113.0	▲ 98
線路使用料等	267	270	266	▲ 1	99.6	▲ 3
租税公課	351	370	374	+22	106.5	+4
減価償却費	1,272	1,255	1,242	▲ 30	97.6	▲ 12
営業利益又は損失 (▲)	▲ 1,270	45	389	+1,659	-	+344
営業外損益	▲ 112	▲ 145	▲ 114	▲ 1	-	+30
営業外収益	133	80	112	▲ 20	-	+32
営業外費用	246	225	227	▲ 18	-	+2
経常利益又は損失 (▲)	▲ 1,382	▲ 100	274	+1,657	-	+374
特別損益	110	170	11	▲ 98	-	▲ 158
特別利益	541	185	765	+224	-	+580
特別損失	431	15	753	+322	-	+738
当期純利益又は純損失 (▲)	▲ 1,216	480	594	+1,810	-	+114

# 3.運輸収入の主な増減要因

(単位：億円)

		2023年3月期 通期実績				
		運輸収入	対前年	主な増減要因		
新幹線	3,516	+1,400 (166.2%)	基礎トレンド(100.0%)			
			特殊要因	・コロナ影響の低減	+1,307	
				・インバウンド需要の回復	+47	
				等		
在来線	近畿圏	+460 (121.9%)	基礎トレンド(100.0%)			
			特殊要因	・コロナ影響の低減	+411	
				・インバウンド需要の回復	+39	
				等		
	その他	860	+207 (131.8%)	基礎トレンド(100.0%)		
				特殊要因	・コロナ影響の低減	+191
					・インバウンド需要の回復	+8
					等	
	在来線計		+668 (124.2%)			
	運輸収入計		+2,068 (142.4%)			

※荷物収入は金額些少のため省略

# 4.運輸収入と旅客輸送量の実績

運輸収入

(単位：億円)

輸送人キロ

(単位：百万人キロ)

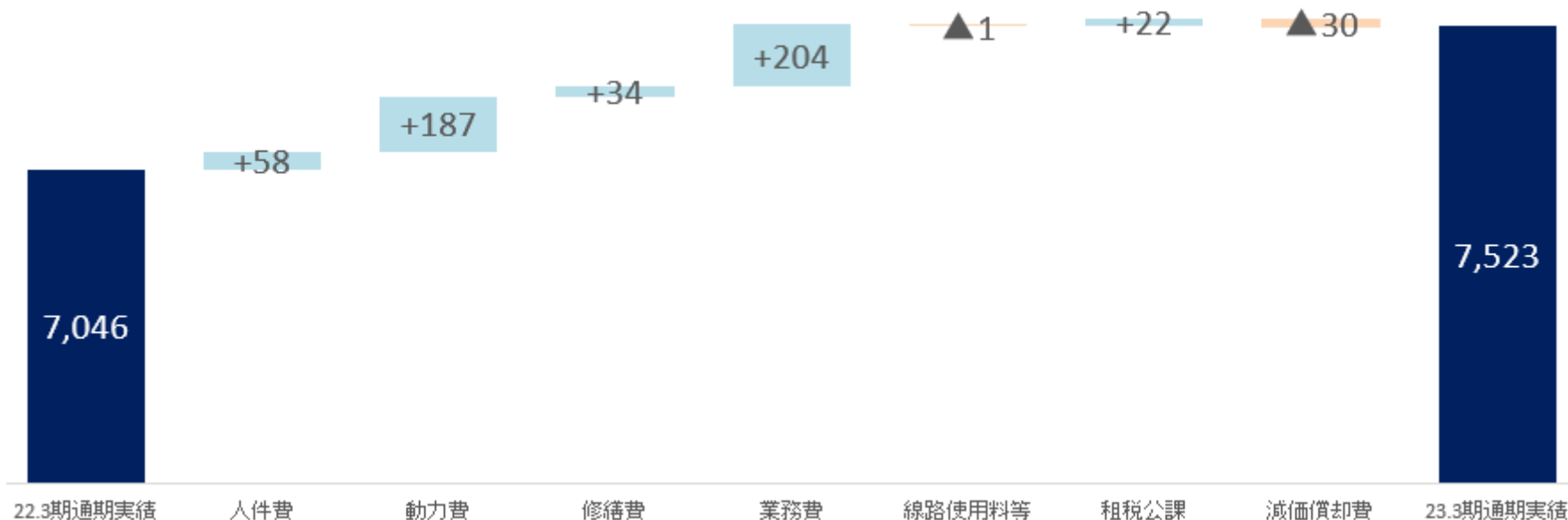
	通期実績 (4/1~3/31)			4Q実績 (1/1~3/31)		
	2022年 3月期	2023年 3月期	対前年	2022年 3月期	2023年 3月期	対前年
全社計	4,876	6,945	+2,068 142.4%	1,225	1,842	+616 150.3%
新幹線	2,116	3,516	+1,400 166.2%	535	953	+418 178.1%
定期	106	111	+5 105.2%	25	27	+1 105.1%
定期外	2,010	3,404	+1,394 169.4%	509	926	+416 181.8%
在来線	2,760	3,428	+668 124.2%	690	888	+198 128.7%
定期	1,191	1,231	+40 103.4%	286	293	+7 102.5%
定期外	1,569	2,196	+627 140.0%	403	595	+191 147.3%
近畿圏	2,107	2,567	+460 121.9%	526	662	+135 125.8%
定期	978	1,015	+36 103.7%	236	243	+6 102.7%
定期外	1,128	1,552	+424 137.6%	289	419	+129 144.6%
その他	653	860	+207 131.8%	163	226	+62 138.3%
定期	212	216	+4 102.0%	49	50	+0 101.3%
定期外	440	644	+203 146.2%	114	176	+61 154.3%

	通期実績 (4/1~3/31)			4Q実績 (1/1~3/31)		
	2022年 3月期	2023年 3月期	対前年	2022年 3月期	2023年 3月期	対前年
全社計	37,303	47,892	+10,589 128.4%	9,029	12,255	+3,225 135.7%
新幹線	9,745	16,293	+6,548 167.2%	2,465	4,449	+1,984 180.5%
定期	824	869	+44 105.4%	200	210	+9 105.0%
定期外	8,921	15,424	+6,503 172.9%	2,264	4,239	+1,974 187.2%
在来線	27,557	31,598	+4,040 114.7%	6,564	7,805	+1,241 118.9%
定期	19,045	19,762	+717 103.8%	4,375	4,568	+192 104.4%
定期外	8,511	11,835	+3,323 139.0%	2,188	3,236	+1,048 147.9%
近畿圏	21,888	24,799	+2,910 113.3%	5,230	6,129	+899 117.2%
定期	15,612	16,259	+646 104.1%	3,629	3,797	+168 104.6%
定期外	6,276	8,539	+2,263 136.1%	1,600	2,332	+731 145.7%
その他	5,668	6,799	+1,130 119.9%	1,334	1,675	+341 125.6%
定期	3,432	3,503	+70 102.0%	746	770	+24 103.3%
定期外	2,235	3,296	+1,060 147.4%	587	904	+316 153.9%

# 5.単体営業費用の主な増減要因

(単位：億円)

	2023年3月期 通期実績			主な増減要因
		対前年		
人件費	1,866	+58	103.3%	賞与の増、人員差による減 等
動力費	596	+187	146.1%	燃料費調整額の増 等
修繕費	1,401	+34	102.5%	コスト構造改革による減、業務波動による増 等
業務費	1,776	+204	113.0%	収入連動経費の増、燃料費調整額の増、広告宣伝費の増 等
線路使用料等	266	▲ 1	99.6%	
租税公課	374	+22	106.5%	法人事業税の増 等
減価償却費	1,242	▲ 30	97.6%	償却進捗 等
営業費用計	7,523	+476	106.8%	



# 6.連結損益計算書

(単位：億円)

	2022年3月期 通期実績 A	2023年3月期		対前年		対予想 増減 C-B
		通期予想 (1/31公表) B	通期実績 C	増減 C-A	比率(%) C/A	
営業収益	10,311	13,090	13,955	+3,644	135.3	+865
営業費用	11,501	12,790	13,115	+1,613	114.0	+325
営業利益又は損失 (▲)	▲ 1,190	300	839	+2,030	-	+539
営業外損益	▲ 19	▲ 165	▲ 103	▲ 83	-	+61
営業外収益	236	72	131	▲ 104	-	+59
営業外費用	255	237	235	▲ 20	-	▲ 1
経常利益又は損失 (▲)	▲ 1,210	135	736	+1,946	-	+601
特別損益	154	90	▲ 7	▲ 162	-	▲ 97
特別利益	588	-	764	+176	-	-
特別損失	433	-	771	+338	-	-
親会社株主に帰属する 当期純利益又は純損失 (▲)	▲ 1,131	585	885	+2,017	-	+300
包括利益	▲ 1,122	-	959	+2,082	-	-

# 7.セグメント情報

(単位：億円)

	2022年3月期 通期実績 A	2023年3月期		対前年		対予想 増減 C-B
		通期予想 (1/31公表) B	通期実績 C	増減 C-A	比率(%) C/A	
営業収益 <sup>*1</sup>	10,311	13,090	13,955	+3,644	135.3	+865
運輸業	5,441	7,390	7,503	+2,061	137.9	+113
流通業	1,242	1,680	1,694	+452	136.4	+14
物販・飲食	1,020	1,390	1,428	+407	140.0	+38
【宿泊特化型ホテル】(再掲) <sup>*2</sup>	【62】	【125】	【135】	【+72】	【215.9】	【+10】
百貨店	181	240	218	+36	120.4	▲ 21
不動産業	1,511	1,620	1,700	+188	112.5	+80
ショッピングセンター	456	540	522	+65	114.3	▲ 17
不動産賃貸・販売	1,040	1,075	1,170	+129	112.5	+95
【不動産販売】(再掲)	【566】	【573】	【658】	【+91】	【116.2】	【+85】
その他	2,115	2,400	3,056	+941	144.5	+656
ホテル	185	315	312	+127	168.4	▲ 2
旅行	959	1,110	1,629	+669	169.8	+519
営業利益又は損失 (▲) <sup>*1</sup>	▲ 1,190	300	839	+2,030	-	+539
運輸業	▲ 1,443	▲ 110	244	+1,687	-	+354
流通業	▲ 86	20	56	+142	-	+36
物販・飲食	▲ 71	10	46	+117	-	+36
【宿泊特化型ホテル】(再掲) <sup>*2</sup>	【▲ 43】	【▲ 20】	【▲ 8】	【+34】	-	【+11】
百貨店	▲ 14	5	7	+22	-	+2
不動産業	300	350	367	+66	122.2	+17
ショッピングセンター	45	70	82	+36	180.9	+12
不動産賃貸・販売	172	200	218	+45	126.5	+18
【不動産販売】(再掲)	【64】	【72】	【85】	【+20】	【132.3】	【+12】
その他	29	70	172	+143	580.8	+102
ホテル	▲ 90	▲ 40	▲ 22	+67	-	+17
旅行	24	0	60	+36	249.7	+60

<sup>\*1</sup> 各セグメントの内訳は、主な子会社の合計値であり、セグメント計と一致しません

<sup>\*2</sup> 宿泊特化型ホテル「ヴィアイン」の合計値です。ただし、浅草店（その他業）、広島銀山町店（その他業）は除きます



# 8.各セグメントの主な増減要因

(単位：億円)

			2023年3月期 通期実績			主な増減要因
			対前年			
			増減	比率(%)		
流通業	物販・飲食	営業収益	1,428	+407	140.0	・緩やかな需要回復による構内店舗の売上増、 旅行需要の回復による宿泊特化型ホテルの売上増 等
		営業利益	46	+117	-	
	百貨店	営業収益	218	+36	120.4	・緩やかな需要回復による店舗の売上の増 等
		営業利益	7	+22	-	
不動産業	ショッピングセンター	営業収益	522	+65	114.3	・SC売上高回復による賃料収入の増、 富山「MAROOT」開業 等
		営業利益	82	+36	180.9	
	不動産賃貸・販売	営業収益	1,170	+129	112.5	・賃貸物件の平年度化、投資家向け販売の増 等
		営業利益	218	+45	126.5	
その他	ホテル	営業収益	312	+127	168.4	・旅行需要の回復による宿泊部門の売上増 等
		営業損失	▲ 22	+67	-	
	旅行	営業収益	1,629	+669	169.8	・旅行、非旅行事業の増 等
		営業利益	60	+36	249.7	

※各セグメントの内訳は、主な子会社の合計値であり、セグメント計と一致しません

# 9.連結財政状況およびキャッシュフロー計算書

(単位：億円)

	2022年3月期 期末 A	2023年3月期 期末 B	増減 B-A
資産	37,024	37,355	+330
負債	26,282	25,911	▲370
純資産	10,742	11,443	+700
有利子負債残高	17,288	16,629	▲658
【有利子負債平均金利(%)】	【1.17】	【1.19】	【+0.02】
新幹線債務	998	986	▲11
【新幹線債務平均金利(%)】	【6.55】	【6.55】	【-】
社債	9,749	9,599	▲149
【社債平均金利(%)】	【0.98】	【0.98】	【-】
DER	1.8	1.6	▲0.2
ネット有利子負債/EBITDA	32.8	5.6	▲27.2
自己資本比率(%)	26.2	27.7	+1.5
1株当たり純資産(円)	3,973.15	4,245.13	+271.98

	2022年3月期 通期実績 A	2023年3月期 通期実績 B	対前年増減 B-A
営業活動によるキャッシュフロー	▲864	2,739	+3,604
投資活動によるキャッシュフロー	▲1,887	▲2,149	▲261
フリーキャッシュフロー	▲2,751	590	+3,342
財務活動によるキャッシュフロー	3,846	▲887	▲4,734
現金及び現金同等物の増減	1,095	▲297	▲1,392
現金及び現金同等物の期末残高	3,195	2,898	▲297

# 10.単体業績予想

(単位：億円)

	2023年3月期 通期実績 A	2024年3月期 通期予想 B	対前年	
			増減 B-A	比率(%) B/A
営業収益	7,912	9,080	+1,167	114.8
運輸収入	6,945	8,070	+1,124	116.2
その他収入	967	1,010	+42	104.4
営業費用	7,523	8,330	+806	110.7
人件費	1,866	1,880	+13	100.7
物件費	3,773	4,510	+736	119.5
動力費	596	695	+98	116.6
修繕費	1,401	1,640	+238	117.0
業務費	1,776	2,175	+398	122.4
線路使用料等	266	270	+3	101.2
租税公課	374	375	+0	100.2
減価償却費	1,242	1,295	+52	104.3
営業利益	389	750	+360	192.5
営業外損益	▲ 114	▲ 145	▲ 30	—
営業外収益	112	—	—	—
営業外費用	227	—	—	—
経常利益	274	605	+330	220.1
特別損益	11	25	+13	—
特別利益	765	—	—	—
特別損失	753	—	—	—
当期純利益	594	440	▲ 154	74.0

# 11.運輸収入の見通し

(単位：億円)

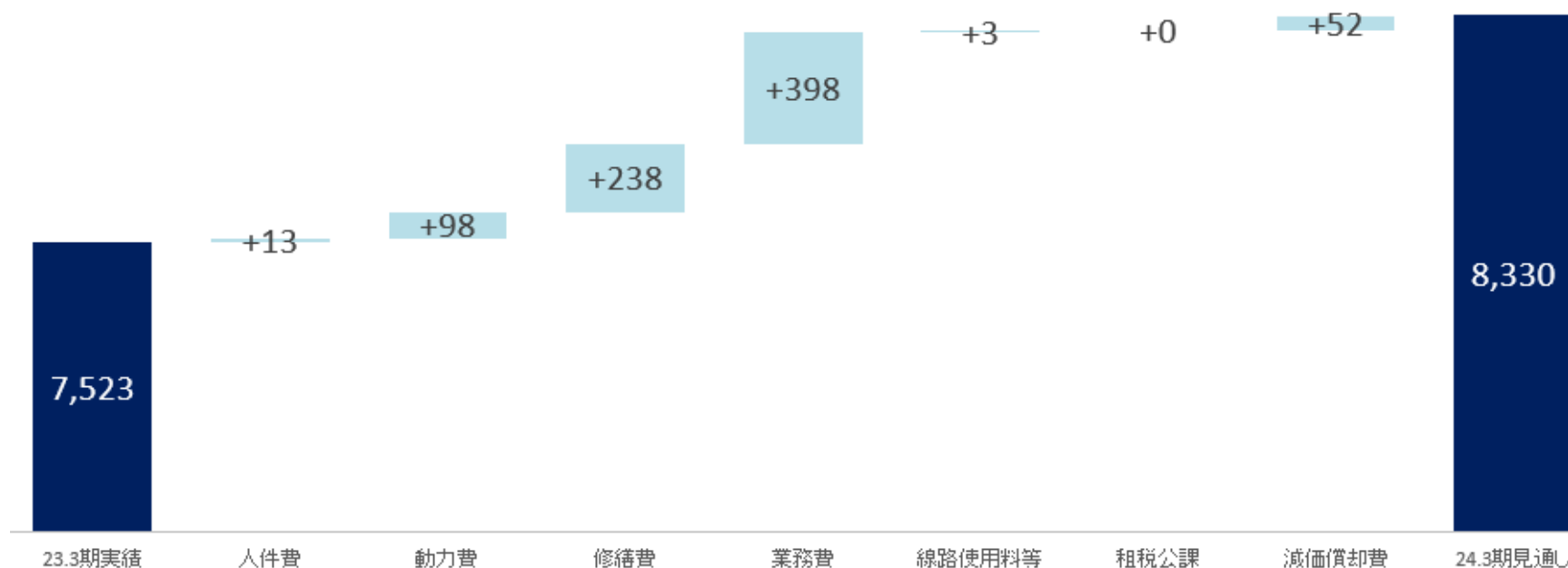
		2024年3月期 通期見通し				
		対前年	主な増減要因			
新幹線	4,190	+673 (119.1%)	基礎トレンド(100.0%)			
			特殊要因	・コロナ影響の低減	+550	
				・インバウンド需要の回復	+48	
				・料金見直し (のぞみ・みずほ)	+42	
				等		
在来線	近畿圏	2,940	+372 (114.5%)	基礎トレンド(100.0%)		
				特殊要因	・コロナ影響の低減	+223
					・インバウンド需要の回復	+50
					・特定区間運賃の見直し	+11
					・バリアフリー料金	+52
	等					
	その他	940	+79 (109.2%)	基礎トレンド(100.0%)		
				特殊要因	・コロナ影響の低減	+58
					・インバウンド需要の回復	+10
					・在来線特急料金の見直し	+4
					等	
	在来線計		3,880	+451 (113.2%)		
	運輸収入計		8,070	+1,124 (116.2%)		

※ 荷物収入は金額些少のため省略

# 12.単体営業費用の見通し

(単位：億円)

	2024年3月期 通期見通し			主な増減要因
		対前年		
人件費	1,880	+13	100.7%	賞与の増 等
動力費	695	+98	116.6%	燃料費調整額の増、電力料金改定 等
修繕費	1,640	+238	117.0%	業務波動による増、先送りしていた修繕の実施 等
業務費	2,175	+398	122.4%	収入連動経費の増、抑制していた施策の実施、DX関連経費の増 等
線路使用料等	270	+3	101.2%	
租税公課	375	+0	100.2%	
減価償却費	1,295	+52	104.3%	設備投資の増 等
営業費用計	8,330	+806	110.7%	



# 13.連結業績予想

(単位：億円)

	2023年3月期 通期実績 A	2024年3月期 通期予想 B	対前年	
			増減 B-A	比率(%) B/A
営業収益	13,955	15,120	+1,164	108.3
営業費用	13,115	13,970	+854	106.5
営業利益	839	1,150	+310	137.0
営業外損益	▲ 103	▲ 155	▲ 51	—
営業外収益	131	—	—	—
営業外費用	235	—	—	—
経常利益	736	995	+258	135.2
特別損益	▲ 7	5	+12	—
特別利益	764	—	—	—
特別損失	771	—	—	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	885	665	▲ 220	75.1
1株当たり当期純利益 (円)	363.26	272.87	▲ 90.39	75.1

# 14.連結業績予想(セグメント別)

(単位：億円)

	2023年3月期 通期実績 A	2024年3月期 通期予想 B	対前年	
			増減 C-A	比率(%) C/A
営業収益 <sup>*1</sup>	13,955	15,120	+1,164	108.3
モビリティ業	8,337	9,550	+1,212	114.5
流通業	1,659	1,765	+105	106.4
物販・飲食	1,428	1,505	+76	105.4
【宿泊特化型ホテル】(再掲) <sup>*2</sup>	【135】	【180】	【+44】	【133.1】
百貨店	218	245	+26	112.4
不動産業	2,049	2,160	+110	105.4
ショッピングセンター	557	585	+27	104.9
不動産賃貸・販売	1,170	1,185	+14	101.2
【不動産販売】(再掲)	【658】	【651】	【▲7】	【98.8】
ホテル	312	380	+67	121.5
旅行・地域ソリューション業	1,629	1,365	▲264	83.8
その他	279	280	+0	100.0
営業利益又は損失(▲) <sup>*1</sup>	839	1,150	+310	137.0
モビリティ業	332	720	+387	216.5
流通業	54	60	+5	109.2
物販・飲食	46	55	+8	119.3
【宿泊特化型ホテル】(再掲) <sup>*2</sup>	【▲8】	【15】	【+23】	—
百貨店	7	10	+2	127.1
不動産業	345	335	▲10	96.9
ショッピングセンター	83	75	▲8	89.6
不動産賃貸・販売	218	155	▲63	71.0
【不動産販売】(再掲)	【85】	【38】	【▲46】	【45.6】
ホテル	▲22	5	+27	—
旅行・地域ソリューション業	60	40	▲20	65.8
その他	45	10	▲35	22.0

<sup>\*1</sup> 各セグメントの内訳は、主な子会社の合計値であり、セグメント計と一致しません。

<sup>\*2</sup> 宿泊特化型ホテル「ヴィアイン」の合計値です。ただし、浅草店（不動産業）、広島銀山町店（不動産業）は除きます。

# 15.各セグメントの見通し

(単位：億円)

		2024年3月期通期予想				主な増減要因
			対前年			
			増減	比率(%)		
モビリティ業	営業収益	9,550	+1,212	114.5	・ 需要回復による鉄道利用の増 等	
	営業利益	720	+387	216.5		
流通業	物販・飲食	営業収益	1,505	+76	105.4	・ 需要回復による構内店舗、宿泊特化型ホテルの売上増 等
		営業利益	55	+8	119.3	
	百貨店	営業収益	245	+26	112.4	・ 需要回復による店舗の売上の増 等
		営業利益	10	+2	127.1	
不動産業	ショッピングセンター	営業収益	585	+27	104.9	・ SC売上高回復による賃料収入の増 等
		営業利益	75	▲ 8	89.6	
	不動産賃貸・販売	営業収益	1,185	+14	101.2	・ 販売の減 等
		営業利益	155	▲ 63	71.0	
	ホテル	営業収益	380	+67	121.5	・ 需要回復による宿泊部門の売上増 等
		営業利益	5	+27	-	
旅行・地域ソリューション業	営業収益	1,365	▲ 264	83.8	・ ソリューション事業の反動減 等	
	営業利益	40	▲ 20	65.8		

※各セグメントの内訳は、主な子会社の合計値であり、セグメント計と一致しません。



# 16. 諸元表

(単位：人、億円)

	2022年3月期 通期実績	2023年3月期 通期実績	2024年3月期 通期予想
連結ROA (%)	—	2.3	3.1
連結ROE (%)	—	8.8	6.3
連結EBITDA <sup>*1</sup>	429	2,436	2,790
連結減価償却費	1,608	1,596	1,640
連結設備投資 (自己資金)	2,131	2,146	2,670
単体設備投資 (自己資金)	1,494	1,559	1,770
安全関連投資	830	732	970
1株当たり配当金 (円)	100.0	125.0	100.0

	2022年3月期 通期実績		2023年3月期 通期実績		2024年3月期 通期予想	
	連結	単体	連結	単体	連結	単体
期末従業員数 (就業人員)	46,779	22,715	44,897	21,727	—	—
金融収支	▲ 181	▲ 188	▲ 197	▲ 183	▲ 194	▲ 177
受取利息・配当金	32	24	10	23	11	26
支払利息	214	212	208	207	205	204

<sup>\*1</sup> EBITDA = 営業利益又は損失 + 減価償却費 + のれん償却額

- 本スライドは、JR西日本の事業、産業及び世界の資本市場についてのJR西日本の現在の予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来の展望についても言及しています。
- これらの将来の展望に関する表明は、さまざまなリスクや不確かさがつきまとっています。通常、このような将来への展望に関する表明は、「かもしれない」、「でしょう」、「予定する」、「予想する」、「見積もる」、「計画する」、又はこれらに類似する将来のことを表す表現で表わされています。これらの表明は、将来への予定について審議し、方策を確認し、運営実績やJR西日本の財務状況についての予想を含み、又はその他の将来の展望について述べています。
- 既に知られた若しくははまだ知られていないリスク、不確かさその他の要因が、かかる将来の展望に対する表明に含まれる事柄とも大いに異なる現実の結果を引き起こさないとも限りません。JR西日本は、この将来の展望に対する表明に示された予想が結果的に正しいと約束することはできません。JR西日本の実際の結果は、これら展望と著しく異なるか、さらに悪いこともありえます。
- 実際の結果を予想と大いに異なるものとしうる重要なリスク及び要因には、以下の項目が含まれますが、それに限られるわけではありません。
  - 財産若しくは人身の損害に関する費用、責任、収入減、若しくは悪い評判
  - 経済の悪化、デフレ及び人口の減少
  - 日本の法律、規則及び政府の方針の不利益となる変更
  - 旅客鉄道会社及び航空会社等の競合企業が採用するサービスの改善、価格の引下げ及びその他の戦略
  - 感染症の発生・流行
  - 地震及びその他の自然災害のリスク、及び情報通信システムの不具合による、鉄道その他業務運営の阻害
- 本スライドに掲げられたすべての将来の展望に関する表明は、2023年4月28日現在においてJR西日本に利用可能な情報に基づいて、2023年4月28日現在においてなされたものであり、JR西日本は、将来の出来事や状況を反映して、将来の展望に関するいかなる表明の記載をも更新し、変更するものではありません。
- なお、2005年4月25日に発生させた福知山線列車事故に関する今後の補償費用等については、現時点で金額等を合理的に見積もることが困難なことから、本スライドの見通しには含まれておりません。

当資料は、弊社ホームページでご覧いただけます。

JR西日本ホームページ「IR情報」 <https://www.westjr.co.jp/company/ir/>